

# 若者が感じる ジェンダーギャップ エピソード集



# 若者が感じる ジェンダーギャップ エピソード集

## はじめに

私たちが暮らしている中で、男女の違いによる格差や不平等を感じることはありませんか。

これは「ジェンダーギャップ」と言われ、日常の習慣から社会の制度・仕組みに至るまで根強く残っています。男女がともに生き生きと暮らせる社会の実現に向けて、ジェンダーギャップに気づき、解消していく必要があります。

県では、県内の若年層の声を聞くため、令和4年度に、家庭、学校、地域など様々な場面で感じるジェンダーギャップに関するアンケートを実施するとともに、県内大学において学生との意見交換会を開催しました。

このたび、いただいたご意見等を元に、若者が実際に経験したり、見聞きしたジェンダーギャップに関するエピソードを紹介するリーフレットを作成しました。この中には、思わず「ある、ある!」と共感してしまうエピソード、少し胸が痛くなってしまうエピソードなど、たくさんの若者の生の声が含まれています。

ぜひ、ご一読いただき、私たちの心の中にある「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識、無意識の思い込みを見つめ直す機会にしていただければ幸いです。

## INDEX

家庭編 ジェンダーギャップに関するエピソード	3
学校・進学編 ジェンダーギャップに関するエピソード	5
地域編 ジェンダーギャップに関するエピソード	7
職場・就職編 ジェンダーギャップに関するエピソード	9
ジェンダーギャップを解消するために必要なこと	11
最後に	12
(参考)ジェンダーギャップに関するアンケート集計結果	13



# 家庭編 ジェンダーギャップに関するエピソード

## 10歳代

「女の子だから～しなさい」と母に言われた。  
(女性)

家制度的な価値観（長男は家を継ぎ、女は家庭にいればいい）。  
(男性)

介護をしているのはどの家庭でも女性が多い。  
(女性)

兄は帰りが遅くとも誰と遊ぼうとも自由だけど、私は女だから制限される。  
(女性)

母や祖母がご飯を作るのが当たり前という認識を感じた。  
(女性)

「女だから料理が出来なくてはならない」「男だからはっきりしゃべれ」など。  
(女性)

家事の手伝いで「女の子でしょ、手伝って」と言われること。兄は言われないので気分が悪い。また、言葉遣いが悪いと、「女の子らしくしなさい」と言われること。  
(女性)

## 20歳代

家庭外の仕事は夫、家庭内の仕事は妻。  
(男性)

「男の子だから早く決めなさい」と急かされたことがある。  
(男性)

家庭内での優先順位は常に男性が上位である。  
(女性)

「家族を養うことになるのだから、いい所に就職しろ」と言われた。  
(男性)

「男だから食器の洗い物はするな」と祖母が父に言っていた。父は反論し、洗い物をしていた。  
(女性)

「男だから泣くな」、「男らしくしろ」と言われる。  
(男性)

主に母や祖母から「男のくせに」という言葉が出ており、ジェンダーギャップを強く感じた。  
(男性)

親から収入が高い仕事に就くよう言われるのは、たいてい男性。  
(大学意見交換会)

家庭内で、母親がいつも兄には「男の子だから洗い物はしなくてもいい」と伝えているが、私は女なのでやらされる。祖母も同じ考えで、兄には「いいから座っていなさい」と言う。ジェンダーギャップは世代で受け継がれるのでないか。家庭でのジェンダーギャップ解消が一番重要だと思う。  
(大学意見交換会)

家での家事は母が殆どしており、父はあまりやらない。  
(20歳代 女性)

年配の世代には特に、共働きであっても、家事をするのは女性という考え方が根付いている。  
(20歳代 女性)

スポーツの習い事で女性に負けた時、「女性に負けるなんて情けない」と言われた。  
(20歳代 男性)



## 20歳代

母親に「あなたは女の子だから、男の子の格好や髪型にするのはやめなさい」など言われた。  
(女性)

家庭内で片付けや料理、洗濯などは母がいつも行っている。  
(女性)

「女性だから」という理由で、家事を行うのが当たり前になっていること。  
(男性)

一家の跡取りを考える際、男だから、長男だからという理由で名前が挙がる。  
(男性)

結婚で名字を変えるのは、ほとんど女性であること。  
(女性)

家族と将来について相談する時によく「男だから～」と言われる。  
(男性)

「女の子だから家事を手伝え」と妹が親からしきりに言われていた。  
(男性)

## 30歳代

女性だから家事をするのが当たり前になっている。夫は何もしない、たまにやってもらおうと、やってあげた感を強く感じる。お願いしないとやらない。  
(女性)

「子供にミルクをあげるのは女性の仕事」と手伝えてくれなかった夫。  
(女性)

親からの教育で「女の子だからおしとやかに」、「男の子だから泣かない」と言われた。  
(女性)

夫が家事育児をすると褒められたり、「協力的な旦那さんだね」と言われたりする。  
(女性)

「長男だから、〇〇をしなくてはいけない」と言われて育ち、今でも言われる。  
(男性)

男性は仕事をし、女性が家庭を守るという意識がある。  
(男性)

祖父母の世代から、「未だに女性が男性のごはんを用意する、男性が墓守をする」というように言われる。  
(女性)

家のことは女がやるものだという固定概念。  
(男性)

「母親じゃないと赤ちゃんが泣くから父親は面倒を見ない」「初めてでわからないから父親は子どもの世話をしない」「仕事で疲れたから、眠いからやらない」と言うが、母親はそうはいかない。  
(女性)

結婚の際に苗字をどちらにするか夫と議論しても、女性側の苗字を採用することは検討してもらえなかった。また、育休の取得を夫に頼んでみたが「まだ雰囲気的に男性は取りづらい」と言われた。  
(女性)

「男の子だから泣かない！」と主人が男の子どもに言っていて少し気になった。  
(女性)

子育てにおいて、父親には母親が教えてあげなきゃだめ、褒めて伸ばさなきゃだめ、助けて欲しかったら母親から言わなきゃだめ、などと言われた。  
(女性)

# 学校・進学編 ジェンダーギャップに関するエピソード

## 10歳代

進学する時に、女の子だからと反対されたことがある。(女性)

高校の先生は進学について考える時に「女子だから浪人は厳しいし、一人暮らしも厳しいよね」と言っていた。(男性)

男性は理系、女性は文系。(女性)

文理選択する時、理系に行きたいが男のイメージが強く、迷っていた女子がいた。(男性)

小学校の頃の出席番号で男の子が先で女の子が後だった。(女性)

小学校の時、仲が良かった男の子と人形などで遊んでいたら、他の男の子から、「男なのに女子みたいなことをして遊んでいる」と言われたこと。(女性)

体育祭で、男子は組体操、女子はダンスをする。(男性)

高校の男の先生が育児休暇を取ったことに、生徒のほとんどが「男性の方なのに」と驚いていた。(女性)

小学生の時に、「男なのに泣くのはダサイ」と言われた。(男性)

女性だからという理由で、工学部等が避けられることはよく耳にする。(男性)

自分は看護師を目指しているのだが、女性が多い職場だというのがあり、「男なのに看護師を目指すのか」みたいな発言を聞いた。しかし、珍しいのは事実なので、特に気に障りはしなかった。(男性)

男子で重いものを運ぶように言われた。(男性)

友達との会話を先生に聞かれた時に、「女の子がそんな事言っちゃいけません」と言われた。(女性)

## 20歳代

小学生の頃、先生から「男だから泣くんじゃない」と言われたことがあった。(男性)

理系の大学で女性が落とされていた(ニュースで)。(女性)

一般的に理系に進学するのは男性。(男性)

「女で頭良すぎると、結婚できないから、そこまで頭の良い大学に行かなくていい」「大学院に行くと女は特に結婚できないから行く必要ない」と言われた。(女性)

重い荷物や物を持つ時は、男子が行って、メモやまとめなどの発表は女子が主にやること。(男性)

女子は商業高校、男子は工業高校に行く人が多い。(大学意見交換会)

三者懇談、教育相談の組み合わせは、たいてい先生と母と子である。(大学意見交換会)

女子は更衣室が準備されているが、男子は教室だった。男なら見られてもいいという偏見？(大学意見交換会)



## 20歳代

高校時代に所属していた陸上部では、男女混合にも関わらず、部長は代々男子と決まっており、その伝統は受け継がれている。

(大学意見交換会)

教科担任における男女比が科目によって偏りがある。

(大学意見交換会)

高校まではあまり実感していなかったが、大学に入ると、学部学科ごとに男女比が大きく違うことでジェンダーギャップを感じた。

(大学意見交換会)

男子で家庭科の成績がいいと珍しがられる。

(大学意見交換会)

先生が授業で男子に発言を求めることが多い。

(大学意見交換会)

子供の頃の夢はパティシエになることだったが、小学校の将来の夢を語る会で、同じ夢の男子と並んだら、男子は自分一人だった。

(大学意見交換会)

性別によって入れる委員会が決まっている場合がある。

(大学意見交換会)

学級委員長は男子、副委員長は女子。

(大学意見交換会)

学校で「女子は足を閉じなさい」「男子は力仕事」と言われた。

(男性)

話し方・行動について、「女の子らしくしなさい」と学校で言われていた。がさつだと「女の子なのに」と言われた。

(女性)

小学生の時などは、男の子が青、女の子が赤などの決まりがあった。

(女性)

中学で男だからという理由で、班の仕事や雑用をすべて押し付けられた。

(男性)

仕事の分担や「男だったら～だよ」という先生の話。

(男性)

## 30歳代

母親が、仕事が休みの日に保育園に預けると怪訝な顔をされたり、拒否されたりするが、父親が休んで預けても「仕方ない」と言われたという話を聞いた。

(女性)

中学校生活において保健委員長になった際、「過去に男性で保健委員長に立候補した者はいなかった」と女性顧問に言われたこと。

(男性)

幼稚園からの案内について、全て対象者が「お母さま」になっており、違和感があった。

(男性)

応援団長や生徒会長は基本的に男子が担っていた。

(男性)

「女の子は大学へ行かなくてもいい」という、おばあちゃん世代の考え。

(女性)

# 地域編 ジェンダーギャップに関するエピソード

## 20歳代

田舎の町の祭りでは、料理は女性が作り、男性は飲んで食べるだけ。女性が食べるのは男性が食べ残したもの。後片付けも女性。また法事も同じだった。(女性)

地元ではだか祭りがあるが、男性はふんどし姿で祭りに参加、女性は家でふるまいをすると役割が分かっている。そもそも日本の伝統文化において、男女の役割が明確に分かれているのが問題でないか。(大学意見交換会)

70代以上の祖父母世代で「結婚したら女は早く子供産んだ方がいい(産まないとダメだ)」、などと言っている人がいまだにいる。(男性)

「女性は30歳までに結婚しないと貰い手がない」という話を今でもよく見聞きする。(女性)

私はかわいいもの好きだから嫌ではなかったけど、小さい頃から女の子だからという理由でフリフリの服とか着せられていた。地域の人と話す時によく「女の子だもんね」が付く。すごく嫌だった。女の子だから誉めるみたいなのが伝わった。(大学意見交換会)

子ども会など地域の活動は女性の仕事とされている。(大学意見交換会)

町内会の会長は男性と決まっている。(大学意見交換会)

高校時代、バス通学をしていて、ほとんどが男性の運転手。広告では女性の運転手を募集しており、企業が努力していても、受け止める側の意識が高くないと、ジェンダーギャップをなくすことは難しいと感じた。(大学意見交換会)

親戚に、「女の子が一人暮らしなんて大丈夫?」と言われた。(大学意見交換会)

「男の子なのに一人暮らしで自炊できるなんてすごい」と年配の人に言われた。(大学意見交換会)

「女の子だからそんなにい学校には行かなくいい。結婚、子育てがあるからそこまで頑張っても働かなくてもいい」と言われる。(女性)

地域内のコミュニティで顔見知りの人に「女は子を産むのが役目。生まないと意味がないわ」「一人で生きていくより結婚して子を持つのが幸せよ」「子供が欲しいなら若いうちに産みなさい」などと言われた。人の価値観はそれぞれなのに意見を押し付けられた。(女性)

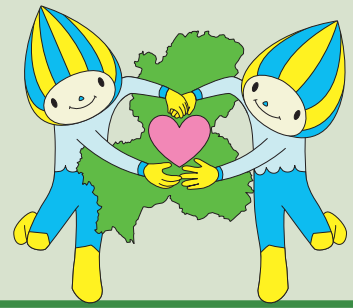
## 30歳代

地域で、「早く結婚して子供を生んで地域の役に立て」と言われたこと。(男性)

地域の公民館掃除は女性が行く。(女性)

子持ちのお母さんで、「女の子だから、こういうのが大好きだよね」という発言を無意識にされている方がいた。(女性)





## 30歳代

会社の飲み会や地元の人たちや親せきと集まる際に、「結婚はまだか」と聞かれることが多々ある。悪意はなくただの会話の掘りなのかもしれないが、一度や二度ならまだしも何十年と聞かれ続けると流石に気分が良くない。(女性)

異性からではなく同性の女性からの発言で、ジェンダーギャップを感じるが多々あった。「家庭を持てば女性は正職員でなく、パートであるべき」「共働きでなく、母親が子育てすべき」など。ご自身がそうであったからなのか、昔ながらの美談が私には苦しかった。(女性)

親戚のなかでの会話や、職場の同僚との会話では、男女は良い年ごろになると結婚し、女性は子どもを産むことが当たり前という前提で話が進められる。(女性)

引っ越してきた地域での神事で女人禁制の習わしがまだあったこと。行事の習わしとしてやっている程度でうるさく言う感じでは無かったが、過去に住んでいた地域には無かったことなので少し驚いた。(男性)

子供が病気の時に仕事を休むのは父親ではなく母親の役目と言われる。(女性)

地域の活動では、外の作業は男性、中の作業や休憩のお茶を出すのは女性の仕事といったように性別による作業分担がある。(男性)

子供を保育園に預けて働いている女性に対し、男性が「3歳までは女性が家で育てたほうが良い」と発言しているのを聞いた。(女性)

地域の役回りで男性と女性に差が見られる。(自治会長、区長、各種委員、消防団など)(男性)

地域の子育て施設でのイベントや施設(授乳スペースなど)、コミュニティは基本的にはママ向けのものが多く、男性は入りにくいのではと感じる。(女性)

「男性を立てなければならない。男性ファーストで行うべき」という雰囲気がある場がある。(女性)

夫が一人で子供を市の健診に連れて行くと「奥さんはお仕事ですか?」や「すごいですね」と言われた。女性が一人で連れていっても「旦那様はお仕事ですか?」や「すごいですね」とは言われない。また、健診前の記入票も母親が記入する前提(あなた(母親)の体調はどうですか?父親は育児に協力的ですか?など)だったので、男性の主体的な育児を考えていない書き方だと思った。(女性)

自治会にて、自治会の重役はほぼ男性であること。(男性)

地域の役員や役割は、男性だからこの役、女性だからこれをやるというのは根強くあるような気がする。(女性)

# 職場・就職編 ジェンダーギャップに関するエピソード

## 10歳代

バイト（飲食店）で、男子はキッチンやドリンク作りなどの裏方をやり、女子はホールで接客するなど、男子と女子でやる仕事が分けられていること。（男性）

同じ仕事でも給料が男女で異なること。（女性）

男性だからという理由で、力のいる仕事を毎回やらされていたのを見た。（女性）

面接で「女性だけど、男性の中で働くことに対してどう思うか」と聞かれた。（女性）

## 20歳代

男性はできるけど、女性は出来ない（なりにくい）職業があり、進路を高校生の時に考える際にジェンダーギャップを感じた。（女性）

「女の子は地元で就職した方がいい」と言われた。（大学意見交換会）

以前の職場で結婚を理由にした転勤希望は女性のみであった。社内規定があったわけではないが、女性が男性の勤務地へ転居するのが当たり前という風潮であった。（男性）

女性が理事になった際、「女性初の理事」と一大事のようにお知らせされていた。男性が理事になってもそんなことは言われない。（女性）

男性が働かないといけないということはないと思う。奥さんの方が収入が高かったので、男性が事務職で時短にしようとしたが、親や周りなどの意見もあり、世間体を気にした結果、断念せざるを得なくなった友達がいた。（男性）

企業によっては「女性は事務職、男性は営業職に配属」が当たり前になっている。同じ職種で就職しても女性は転勤がないが、男性は全国転勤があるという風潮が実際にある。（女性）

職場に女性の役職者がいないこと。（女性）

男性はこれからの社会人生活が長いから、女性より幅広い仕事を体験させている、女性は異動が少ないから、毎年のルーティンの仕事を任せられているように感じる場面がある。（女性）

アルバイト、パートは女性が多い。女性の家事負担が大きくて、結果的に男性は正規雇用、女性は非正規で働くことになる。（大学意見交換会）

営業の際に車を運転していたら（訪問先の住所をたまたま知っていたため運転を申し出た）、訪問先で同行した男性職員が顧客に「女性に運転させるなんて贅沢だ」と言われた。（女性）

女性がお茶くみ係や掃除担当になっているケースをよく目にする。（20歳代 男性）

女性には夜間勤務はなるべくさせないように勤務時間を調整する。（20歳代 男性）

「電話に出るのは女性の方が印象がいいから絶対出るように」と言われた。「女性だから事務服はスカート」と決めつけられた。（女性）



## 20歳代

仕事柄（看護師）なのか、男の人はケアに向いていない、雑と決めつけられ、力仕事を当てられ、肩身の狭い思いをしていた。（女性）

前職の時に「女だからフォークリフトを運転したら危ない」と資格を持っているのに運転を止められていた。（20歳代 女性）

## 30歳代

男性と同等の職務についている社員の人が、「〇〇さんは女だから男性と同じような額の給料は出せない」と言われているのを聞いたことがある。おそらく旦那さんの稼ぎもあるのでといった意味合いでも言われていたかもしれないが。（女性）

賃金や昇進の格差を実感している。（女性）

「母親だから家にいないといけない」と言われた。「女性は結婚したら出産などを伴ってくるので長く働けない、大事な仕事を任せられない」と言われた。（女性）

会社員として働く中で社内外に関わらず違和感を覚えるのは、家庭の事情で会社を休む・早退する対応を取るの女性の方が多い。正社員の女性も会社の中で男性同様責任を持って仕事をしなければならない場面があるのに、家庭の事情で会社に休む連絡をする、仕事の調整するのは女性が優先的に行われているように感じる。（女性）

「女性のスタッフは信用できないから男性に代わってほしい」など言われたことがある。（女性）

配属された職場では、男女ともに営業スタッフはいるものの、バックヤードやサポート業務の多くは女性が担っていた。（男性）

社員採用について社内で検討する際、出産で抜ける時期の無い男性を採用したいという意見が出た。（男性）

職場でお弁当を持参しているが、「夫が作った」と言うと驚かれる。ごはん、家事は妻がするのが前提で話される。（女性）

就職活動の際、女性のリクルート指導者が「女性のスーツはスカートのほうが良い」と発言した。（女性）

性差があるとはいえ、男性が当たり前のように力仕事や汚れるような仕事をやらされる場面がある。逆に、未だに女性がお茶くみをするような場面もある。（男性）

就職活動時、合同企業説明会にて、とある企業の方に、「今、雇いたいのは男性だから、女性はちょっと」と言われたことがある。（女性）

男性のみに営業実績についての叱責、激励をしている。（女性）

職場では、女性の正社員登用が少なく感じる。（男性）

# ジェンダーギャップを解消するために必要なこと



まず、自分の中の潜在的な固定概念を見つめ直す必要があると考える。 (10歳代 男性)

話し合いと妥協が必要だと思う、まずはお互いを理解した上で解決策を探す。しかし、どちらもが納得していくことは難しい。思想や事実は変えにくいもの、変えられないものが多いので。そこで妥協してどこかで折り合いをつけることが大切であると思う。 (10歳代 男性)

「男はこのことをする」「女はこのことをする」といった性別役割分担を解消することが必要。育児中の時短勤務は男性にも認められていいはず。男性が家庭に貢献しやすくなれば、女性も社会で活躍しやすくなると思う。 (20歳代 女性)

会社の上の方の人が解消しようとするれば、自然と社員も考え方が変わってくると思う。 (20歳代 女性)

性別で考えるのではなく、その人個人として考えられるような社会にするべきだと思う。日本は良くも悪くも集団的に人を見ているところがあるため。 (20歳代 男性)

皆が当たり前を当たり前とせず、そこにジェンダーギャップは無いかと考える意識を持つことが大事。また、各人が各世代の思いや考え方を知るためにコミュニケーションをとる努力をすること。内にこもって自分とは別の考えを受け入れない姿勢はジェンダーギャップを助長する。 (30歳代 女性)

子供のころから親や教師から刷り込まれているので無意識的にギャップが生じていると思う。大人が子供の「なんで？」にちゃんと答えられるようにしていかなければならないのでは。 (30歳代 男性)

男女ともに、相手に任せている仕事や家事育児を当たり前のことと思わず、お互いに感謝の言葉を定期的に伝えることが必要。「いつもこれをしてくれて助かっている」「任せっぱなしなのでやり方を教えて」などの声かけから、それぞれが背負っている役割を理解し合え、お互いに出来ることが少しずつ増えて助け合えると思う。 (30歳代 女性)



さて、皆さんは「アンコンシャス・バイアス (unconscious bias)」という言葉はご存じでしょうか。これは日本語で「無意識の偏ったモノの見方」のことで、固定的な性別役割分担意識とともに、ジェンダーギャップの解消が進まない要因の一つと考えられています。

アンコンシャス・バイアスは誰もが持っていて、そのこと自体が問題というわけではありません。過去の経験や見聞きしたことに影響を受けて、自然に培われていくため、アンコンシャス・バイアスそのものに良し悪しはありません。

## アンコンシャス・バイアスの何が問題なのか

■ 悪意がなくても知らず知らずのうちに相手を傷つけていることがあります。

○お母さんが単身赴任？お子さんがかわいそう・・・

→各家庭の事情や考え方によって、それぞれ決められたことを、周りの人は尊重しましょう。

○男性のくせに育児を優先するなんて、仕事に対するやる気がないよね。

→育児を大切にすることと仕事を充実させることは、両立し得ることです。

■ 性別や属性で進路や任せる仕事を決めることで、成長やキャリアに影響を及ぼすことがあります。

○男子は理系、女子は文系でしょ！女子に理系は向いていないよ。

→あらゆる分野で男女ともに活躍しています。自分の興味・関心に沿った進路選択が大切です。

○事務作業など簡単な仕事は女性がすべきだ。

→仕事の分担は適材適所で決めるべきです。

## 気をつけたいこと

■ 「これって、私のアンコンシャス・バイアス？」と振り返り、気づこうとすることです。

■ 価値観や能力、役割などの「決めつけ」や「押しつけ」に注意することが大切です。

■ 自分の言動に対する相手の表情や態度の変化は、アンコンシャス・バイアスに気づくチャンスです。

若者の皆さんから寄せられたエピソードにはご自身にも思い当たるものが多く含まれていたのではないかと思います。

ライフスタイルや価値観は時代とともに多種多様なものに変化しています。あなたの当たり前を押し付けず、お互いを尊重し、男女ともに自分らしく活躍できる男女共同参画社会の実現を目指していきましょう！

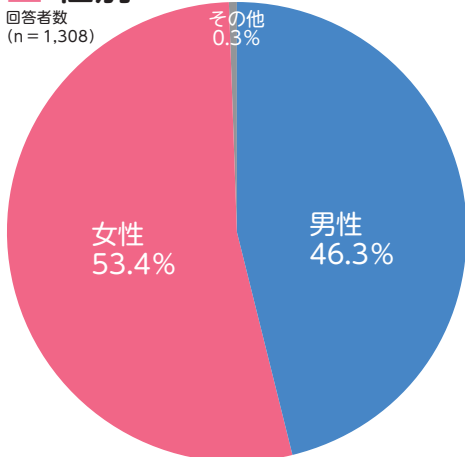
(参考)

# ジェンダーギャップに関するアンケート集計結果

令和4年9月～令和5年2月に、県内高等学校、専門学校、大学の生徒・学生、岐阜県ワーク・ライフ・バランス・推進エクセレント企業、岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進企業の主に若手社員を対象にアンケートを実施し、1,308名から回答をいただきました。

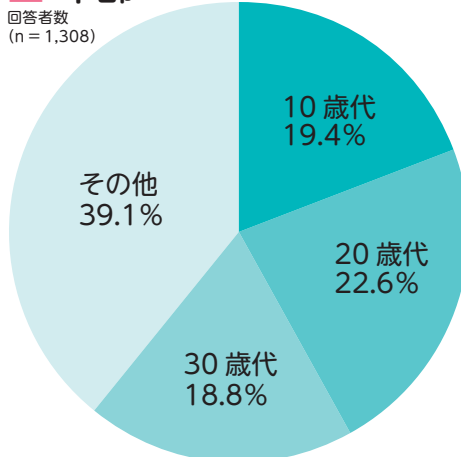
## 性別

回答者数  
(n = 1,308)



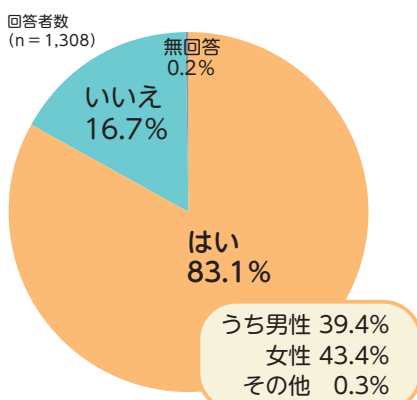
## 年齢

回答者数  
(n = 1,308)



## 「ジェンダーギャップ（男女の違いによる格差）」の認知度

回答者数  
(n = 1,308)

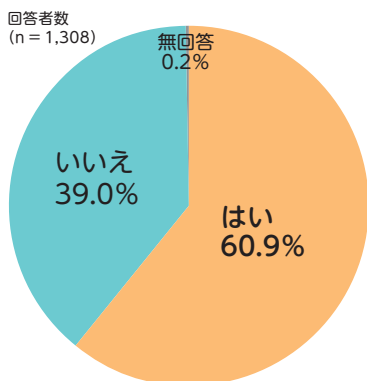


「ジェンダー」とは、生まれつきの生物学的性別（セックス / sex）ではなく、「社会的・文化的に形成された性別」のことです。

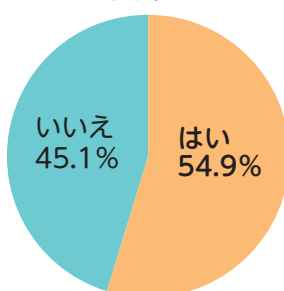
80%以上の方が「ジェンダーギャップ」という言葉を知っており、60%以上の方が、家庭・職場・学校など様々な場面でジェンダーギャップを経験したことがあると回答しています。

## 家庭・職場・学校など様々な場面でジェンダーギャップを経験したことがあるか。

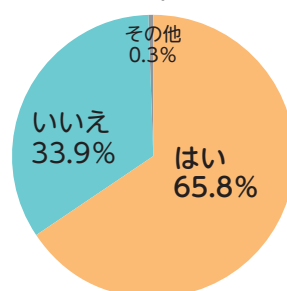
回答者数  
(n = 1,308)

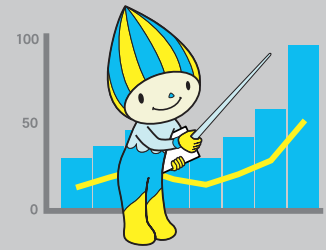


### 男性



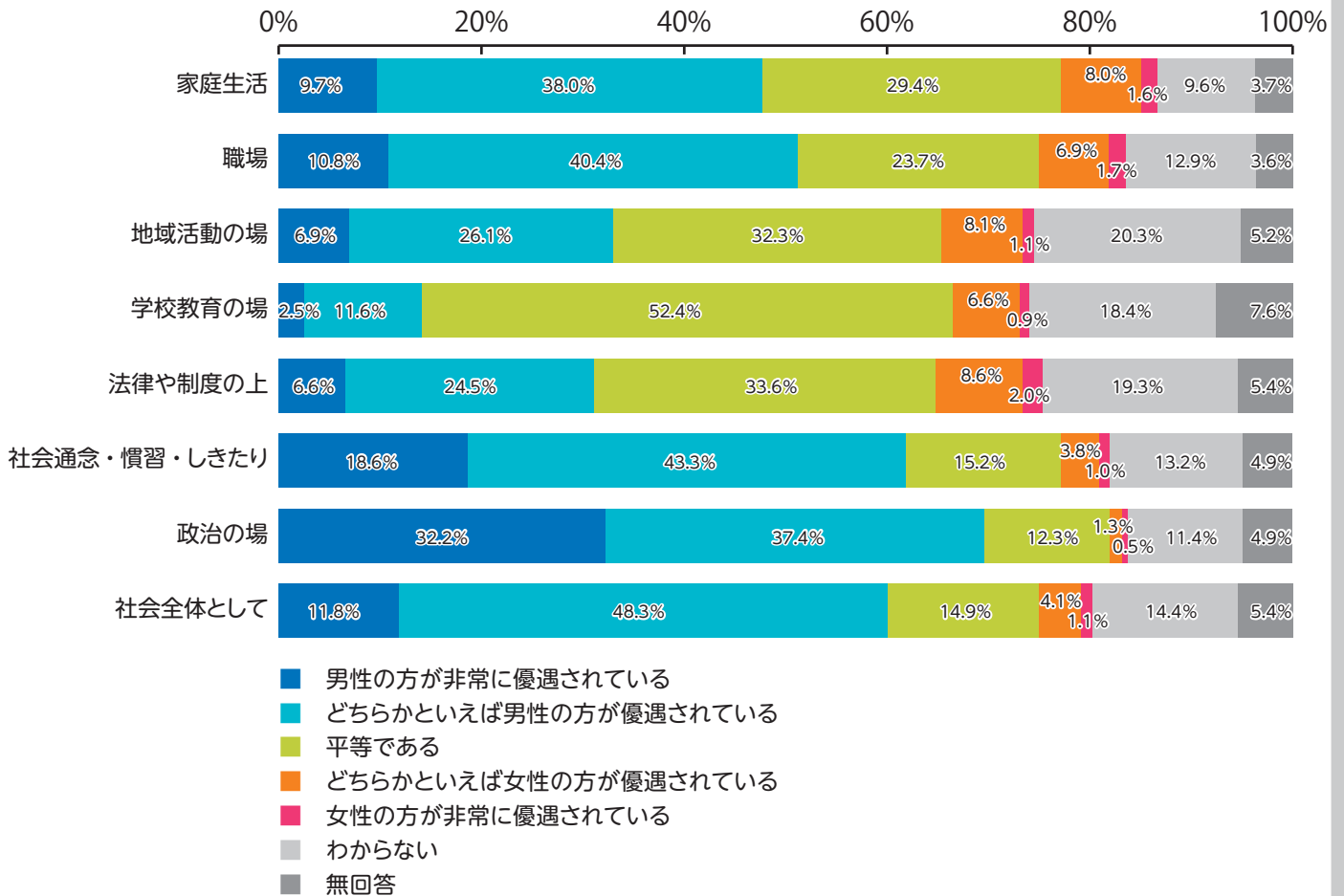
### 女性





## 男女の地位の平等感

回答者数 (n = 1,308)



家庭生活から社会全体に関する8つの分野の多くで「男性優遇」の意識が高くなっています。「男性優遇」は「政治の場」で69.6%と最も高く、次いで「社会通念・慣習・しきたり」が61.9%、「社会全体として」が60.1%の順で高くなっています。



# Youth Feels Gender Gap Episode

